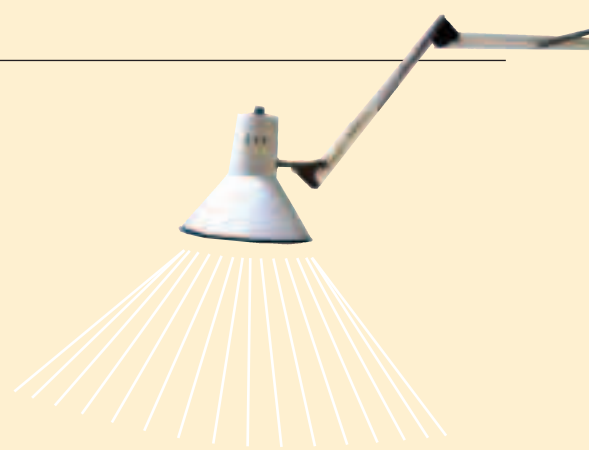


My Book

[著書紹介]



薬学部 製薬化学科助教授 [医薬品化学]

根本尚夫 [ねもと ひさお]

『Latest Frontiers of Organic Synthesis』

執筆担当の章:

213ページ-226ページ

章の題:

Recent advance of organic synthesis
by using masked hydroxycarbonyl anions
and the related reagents

出版:

Research Signpost: Kerala India
2002年

著者がこの本の執筆協力を依頼された時に、頭に思い浮かんだのが1990年にアメリカ化学会誌に発表したMasked Acyl Cyanideという反応剤でした。1990年から徳島大学に赴任した1995年までの5年間に2回の引越(異動)もあつてこの研究は中断を余儀なくされましたが、再開後新しい展開を見せました。最近の成果は5~6の学術論文、2つの海外特許、7社での新聞掲載(02:19 徳島新聞等)という形になりました。

この本では、この反応剤の仲間と言える同様な反応剤を調査しmasked hydroxycarbonyl anions というキーワードで厳選して14ページにまとめました。専門家以外の方には頭痛モノの説明で恐縮ですが、負に荷電して反応する一方で、化学的な「mask」を外すと正に荷電する反応箇所を持つ反応剤です。化学を極めれば電荷の正負反転まで制御できます。そういった化学構造は純科学的にも興味深いですが、致命的な製造工程の矛盾を解決できますので、実用的にも意味が大きいものです。自分の担当章以外にも、本の題目通り、「有機合成」に関する最新の開拓者魂あふれる情報が著名な専門家によってまとめられています。



工学部 知能情報工学科 教授 [知能工学]

矢野米雄 [やの よねお]

『教育システム情報ハンドブック』

出版: 教育システム情報学会編

印刷: 実教出版

価格: 3,800円

最近「e-learning」と言う言葉をよく耳にします。インターネットやWEBなどを使い学習・教育するシステムです。それには、情報の最新の技術が不可欠ですが、それだけではダメです。学習・教育の知見も必要です。情報技術と学習・教育の学際的分野を基礎から実践まで、容易に解説したハンドブックが本書です。教育システム情報学会の編集になっていますが、当時副会長でかつ編集委員長であった矢野が、編集代表としてまとめました。

以下に私の書いた「はしがき」の一部を掲載します。
『本書は大きく分けて7編より成る。それぞれは「基礎」、「認知工学」、「グループ学習 協調学習」、「教育学習訓練システム」、「ネットワークと教育」、「情報教育」、「教育的背景」と題した。これらは教育システム情報の分野を網羅する分野であり、さらに17の章立てに分類した。』
教材の電子化、ネットワーク上での学習、学習者間で互いに教え合う協調学習、それらを支える教育・学習データベース、可視化技術を用いたの学習状況等の把握、システムの構築技術、新しい学習理論のモデル化等多様な内容を含んでいます。各分野の第一線で活躍している80余りの執筆者にお願ひし、理論から実践まで、基礎から応用まで幅広く取り扱ひ、初心者から学習・教育システム構築技術者、研究者を対象としています。